

2025 年6月幹事会 企画幹事資料

1. 2025 年度 例会の準備状況

① 2025 年9月例会

開催日:2025 年10月3日（金）13:30～16:30

場所：日本薬学長井記念ホール（東京）現地開催

講演	演題・所属・氏名	備考	
一般公演	1) 13:30～14:15	済	演題
	「抗体医薬と抗薬物抗体により形成される免疫複合体測定法の開発」（仮）	済	演者
	協和キリン株式会社 小林 和弘 先生	未	ご略歴
		不要	依頼書
	2) 14:15～15:00	済	演題
	「神経障害性疼痛治療剤ミロガバリンの体内動態 代謝と尿排泄メカニズムを中心に」	済	演者
	第一三共株式会社 山村 直敏 先生	未	ご略歴
		不要	依頼書
特別講演	15:15～16:15	済	演題
	「マイクロ流体デバイスを用いた生体模倣システム（MPS: Microphysiological systems）の開発と応用」	済	演者
	京都大学 横川 隆司 先生	済	ご略歴
		済	依頼書
司会	MSD株式会社		

② 2026 年1月例会

開催日:2026 年1月30日（金）

場所:東京ガーデンパレス（東京）現地開催

特別講演: 一般講演の内容と関連した先生を選定予定。

講演	演題・所属・氏名	備考	
一般公演	1) 13:30～14:15	済	演題
	「創薬研究におけるプロテオミクスの活用事例」（仮）	済	演者
	興和株式会社 東 秀行 先生	未	ご略歴
		不要	依頼書
	2) 14:15～15:00	済	演題
	「持続性・経眼瞼アレルギー性結膜炎治療剤 エピナスチン塩酸塩眼瞼クリームの薬物動態」（仮）	未	演者
	参天製薬株式会社 TBD 先生	未	ご略歴
		不要	依頼書
特別講演	15:15～16:15	未	演題
	候補：	未	演者
	#1 大槻純男先生（熊本大：プロテオミクスで著名）	未	ご略歴
	#2 内田康夫先生（広島大：プロテオミクス、BBB研究）	未	依頼書
	#3 細谷健一先生（富山大：血液網膜関門物質輸送）		
	#4 白坂善之先生（昭和薬科大：薬物吸収、眼科疾患薬の治療効果改善の研究）		
司会	MSD株式会社		

2025 年度 第 48 回年会の準備状況

開催日:2024 年 11 月 20 日（木）～ 21 日（金）

場所:オークラアクトシティホテル浜松

事務局・担当幹事: 岩佐・松田（MSD）、小森・永易常任幹事

年会構成案：

4月幹事会での検討事項の提案：

前年度は企業紹介を意見交換会で行っていたが、初日の最初の休憩時間等を調節し、Showcase1の後に1企業2分程度で企業紹介の時間をとることを検討する。

1日目（11/20 木）： 司会 MSD株式会社		
開会挨拶	14:00～14:05	
会長挨拶	14:05～14:10	15 min → 5 min
Showcase（シンポジウム1）	14:10～14:30（5 min×4）	前田先生は業務の都合上、間に合わないため、スキップ
企業展示紹介	14:30～14:45（3 min×5）	意見交換会での実施から移動
休憩	14:45～15:00	
シンポジウム1	15:00～18:30	
基調講演	15:00～15:50	
一般講演×2	15:50～17:00	
休憩	17:00～17:20	
一般講演×2	17:20～18:30	
意見交換会	19:00～21:00	

2日目（11/21 金）： 司会 サターラ合同会社		
会長講演	9:20～10:00	
特別講演	10:00～11:00	
休憩	11:00～11:20	
Showcase（シンポジウム2）	11:20～11:45（5 min×5）	
シンポジウム2	11:45～16:20	
基調講演	11:45～12:35	
昼食	12:35～13:35	
一般講演×2	13:35～14:45	
休憩	14:45～15:10	
一般講演×2	15:10～16:20	
事務連絡	16:20～16:30	

シンポジウム（案）

<シンポジウム1日目>

生理学に基づく生物薬剤モデリング（PBBM）の未来～その利活用と薬物動態研究の貢献～（仮）

趣旨：現在の医薬品開発において、Physiologically Based Biopharmaceutical Modeling

（PBBM）は、薬物の生物学的挙動の予測において極めて重要な役割を果たしている。

PBBMの活用により、バーチャルBE試験を実施することで、ヒト試験を必要とせず、効率的かつコスト効果の高い評価が可能となり、特に新しい治療法の開発や規制当局との対応において革新的なアプローチとなることが期待されている。

本シンポジウムでは、PBBMの利活用に焦点を当て、PBBMの最新の進展、特にバーチャルBE試験の実施とヒト試験のWaiver及び薬物動態研究の貢献、医薬品開発の効率化に関する議論の場としたい。

組織委員

- ✧ 前田和哉 先生（北里大学）
- ✧ 上林敦 先生（東京理科大学）
- ✧ 外川秀幸 先生（中外）
- ✧ 平林英樹 先生（ティー・エヌ・テクノス）

演者（候補）と講演概要

<基調講演>

- ・ 上林 先生（東京理科大学）：
講演演題名：未（吸収に関する薬物動態研究、アプリケーションの利活用及びレギュラトリーサイエンスに関する全般的なご講演）

<一般講演>

- ・ 前田 先生（北里大学）：
講演演題名：未（Gastro-PLUS等で設定されている生理学的パラメータの背景について）
- ・ 富松 先生（中外）：**溶性薬物（アレセンサ）におけるvitro-ヒト相関と製剤設計のケーススタディ**
- ・ Tycho Heimbach 先生（Merck、現地参加の予定）：
講演演題名：未（企業におけるPBBMの活用② Biowaiverを主に）
- ・ 宇都野 先生（PMDA）：
講演演題名：未（当局から見たPBBMの活用と課題）

演題名は7月上旬を目途にメール審議を依頼予定

各講演の座長案

講演	時間 (講演+Q&A)	講演概要	講演者	座長 (案)
基調講演	15：00～15：50 (40+10分)	教育講演	上林 先生	前田先生、平林先生
一般講演 1	15：50～16：25 (25+10分)	PBBM を支える薬物動態研究	前田 先生	平林先生
一般講演 2	16：25～17：00 (25+10分)	PBBM の活用①	富松 先生	前田先生、平林先生
休憩	17:00~17:20			
一般講演 3	17：20～17：55 (25+10分)	PBBM の活用②	Dr. Tycho	上林先生、外川先生
一般講演 4	17：55～18：30 (25+10分)	規制当局から見た PBBM の課題	宇都野 先生	上林先生、外川先生

座長については、当日までに組織委員の先生方で調整される可能性があります。

＜シンポジウム2日目＞

標的タンパク質分解誘導の創薬応用と開発における留意点（仮）

趣旨：特定のタンパク質を分解誘導するケミカルノックダウンを主薬効とする薬物は新たなモダリティとして着目されており、今般、臨床試験も実施されている。このような薬物に関する技術的な展開や創薬への応用、さらに現状における課題や今後の展望を共有し、基本的な概念の学びの場とするとともに、医薬品開発における薬物動態や安全性評価に関する知識をUp dateする場としたい。

組織委員（候補）

- ◇ 澤崎達也 先生（愛媛大学）
- ◇ 井上貴雄 先生（医薬品食品衛生研究所）
- ◇ 今岡尚子 先生（第一三共）
- ◇ 大石昌代 先生（アステラス）
- ◇

演者・座長（案）

講演	時間 講演 + QA	内容	講演者	座長
特別講演	50 + 10	無細胞系と近接バイオチン化を基盤とした標的タンパク質分解誘導薬評価法	澤崎達也 先生 愛媛大学	井上貴雄 先生 国立医薬品食品衛生研究所
休憩				
基調講演	40 + 10	タンパク質分解医薬の臨床開発動向と安全性評価	井上貴雄 先生 国立医薬品食品衛生研究所	今岡尚子 先生 第一三共
昼食				
一般講演1	25 + 10	ヒトプロテインアレイを用いた標的タンパク質分解誘導薬のオフターゲット探索技術	森下了 先生 セルフリースサイエンス	澤崎達也 先生 愛媛大学
一般講演2	25 + 10	標的タンパク質分解薬の創薬化学研究	石川稔 先生 東北大学	
休憩				
一般講演3	25 + 10	標的タンパク質分解誘導薬の非臨床安全性評価における留意点	今岡尚子 先生 第一三共	大石昌代 先生 アステラス製薬
一般講演4	25 + 10	標的タンパク質分解誘導薬；創薬への動態研究者の貢献	大崎史雄 先生 アステラス製薬	

② 今後の予定

- 6/27 プログラムの最終案の審議（時間・座長等含む） 本日
 （必要に応じて追加検討 ～7月上旬）
- 8月末 演題・要旨・キースライド・ご略歴の締め切り （会長講演についても同じ）
- 9月上旬 展示ブースの出展案内
- 10/3 年会プログラム・ポスター最終化（幹事会にて）
- 10月上旬 年会案内・参加募集

③ 必要経費

所属（官学と産）による区分：2024 年と同程度の産官学のバランス構成

	2025 年 人数		2024 年人数		2023 年人数		2022 年人数	
	官学	産	官学	産	官学	産	官学	産
特別講演	1	0	1	0	1	0	1	0
基調講演	2	0	2	0	2	0	2	0
一般講演	3	5	4	4	1	7	2	6
座長	TBD	TBD	4	3	4	3	4	4

人数算出にあたっては、談話会幹事・会長は除外

経費：過去 3 年と比較し減少でやや余裕あり、消化率は約 60%（会長講演謝礼、企業以外の特別会員・功労会員・会長の旅費、官学講演者の東京 OR 大阪より遠方からの来訪による旅費が追加予定）

(万円)	2025 年 人数		2024 年人数		2023 年人数		2022 年人数	
	官学	産	官学	産	官学	産	官学	産
謝礼・旅費	28.4	0	41.2	0	33.4	0	36.4	0
宿泊費	6	5	9	4	8	7	8	6
計	39.4		54.2		48.4		50.4	
予算* (消化率%)	96 (41%)		68 (80%)					

*: 謝礼（講演・座長）・旅費のみ、参加費は支出とならないため算定外として処理、会長スピーチ費は算定外、旅費は東京 OR 大阪発として仮計算

以上

参考資料

直近6年の年会と夏セミナーの概要

	夏セミナー			年会	
	セッション1	セッション2	セッション3	シンポジウム1	シンポジウム2
2019年	薬物間相互作用評価における内因性バイオマーカー研究の最前線	実践に役立つヒト薬物動態予測法の基礎と最前線	創薬における毒と代謝物の評価：現状と課題	低分子創薬の可能性を拓く新規創薬ターゲット 加藤将夫先生（金沢大）、中島美紀先生（金沢大）、 中川徹也先生（大日本住友）	低分子創薬の動態最適化及びDDS戦略 新龍秀一先生（大阪大）、平林英樹先生（武田薬品）、 渡邊伸明先生（第一三共）
講演	大隅典子先生（東北大）、杉山雄一先生（理研）、山添康先生（東北大）			金井好亮先生（大阪大） 影辻弘之先生（東京医科歯科大）	松本邦夫先生（金沢大） 新龍秀一先生（大阪大）
2020年	中止			深化する薬物動態制御技術 大橋純男先生（熊本大）、橋原洋之先生（東京大）、 平林英樹先生（武田薬品）	新技術で切り開く創薬研究の近未来 水口裕之先生（大阪大）、小森高文先生（エーザイ）、 長坂泰久先生（アステラス）
講演				村松慎一先生（自治医大） 伊藤慎吾先生（熊本大）	水口裕之先生（大阪大）
2021年	トランスポーター機能のフェノタイピングのための新規ツールの利活用	まずこれだけ！細胞治療の基礎と最前線	企業研究者が対応すべきバイオアナリシスの規制と多様性	難溶性・難吸収性薬物の吸収予測に関する最新の知見 井上勝央先生（東大）、菅野清彦先生（立命館）、 上林敦先生（アステラス）	薬剤誘導性肝障害（DILI）低減に向けた薬物動態の 言説 伊藤見成先生（千葉大）、中川徹也先生（大日本住友製薬）
講演	高合孝広先生（東京医大）、出澤真理先生（東北大）、杉山雄一先生（理研）			山西芳裕先生（九工大） 榎本康博先生（千葉大）	水口賢司先生（大阪大） 伊藤見成先生（千葉大）
2022年	AMEDが進める創薬基盤推進研究事業と製薬動態研究ニーズ	医薬品開発における2030年の薬物動態の姿	アンメットメディカルニーズに応える薬物動態研究の動向 一新医療モダリティ時代に対峙するための温故知新的アプローチ	Non-CYP代謝研究の新知見と創薬での活用 中島美紀先生（東大）、佐能正剛先生（和歌山医科大）、 大西秀一先生（塩野義）、神山 佳輝先生（アステラス）	バイオマーカー研究の最前線：探索から活用まで 橋原洋之先生（東京大）、斎藤嘉朗先生（国立衛研）、 大石昌代先生（アステラス）、三井市剛先生（第一三共）
講演	藤本利夫先生（湘南ヘルスイノベーションパーク）、浦野泰照先生（東大）、杉山雄一先生（城西国際大学）			深見達基先生（金沢大） 清水万紀子先生（昭和医科大）	橋原洋之先生（東大） 斎藤嘉朗先生（国立衛研） David Rodrigues（ファイザー）
2023年	ニューモダリティの組織移行性への壁	トランスレーショナル研究への壁	進化するバイオアナリシスと薬物動態研究への壁	New modality の薬物動態評価～組織移行性・細胞内分布～ 西川元也先生（東京理科大）、大橋純男先生（熊本大）、 平林英樹先生（武田薬品）、岩崎紀彦先生（田辺三菱）	PBPK モデルの利活用の最新の動向 大谷 壽一先生（慶応大学）、前田和哉先生（北里大学）、 渡邊伸明先生（第一三共）、渡邊貴夫先生（住友ファーマ）
講演	宮田完二郎先生（東京大学）、轟木堅一郎先生（静岡県立大）、杉山雄一先生（城西国際大学）			井上貴雄先生（国立衛研）	菅野清彦先生（立命館大） 青木 康彦（城西国際大学）
2024年	低分子薬剤による新たな機能的制御のための薬物動態研究～低分子薬剤の基礎と可能性～	中程に到達する薬剤を創出するための薬物動態研究～中程移行性の基礎と可能性～	生体内現象を精度高く予測する薬物動態研究～M&Sの基礎と可能性～	サイトーシスと中高分子薬の膜輸送 田田みさき先生（PMDA）、藤田啓之先生（JCRファーマ）、 渡邊那那先生（塩野義）、井上勝央先生（東京医科歯科大）	Special populationでの動態予測 谷川原祐介先生（慶應義塾大学）、大野能之先生（東京大学）、 浅野聡志先生（中外）、辻本景英先生（製薬協）、佐藤洋美先生（千葉大学）
講演	古寺哲幸先生（金沢大学）、滝木理先生（東京大学）、玉井郁巳先生（金沢大学）			二木史郎先生（京都大学）	玉井郁巳（金沢大学）、Bhagwat Prasad（Washington State Univ.）、谷川原祐介先生（慶應義塾大学）
2025年					
講演					
	DDI	開発・個別化医療	ツール・評価法	製剤	バイオマーカー
	ヒト予測・種差	モダリティ	DDS	M&S	安全性